



地区戦略計画推進委員会の紹介

「第3地域ロータリーコーディネーター会議」の参考として、近隣5地区に、戦略計画委員会の常設、委員会規定の制定、毎年検証と次年度への申し送り、構成メンバーの5項目をアンケートでお伺いした結果は、全地区に戦略計画委員会は設置してありましたが、3/5は、規定や毎年の見直しがありませんでした。

私が所属する2700地区も戦略計画委員会の設置は、2016年に組織と規定が整備されたものの、他地区と同様に、構成メンバーが、直近の地区役職者に毎年交代して、RIの新しい情報を共有するメリットはあったものの、デメリットとして、地区の継続計画(5ヶ年計画等の長期計画)の検証と分析による確実な申し送り事項の作成や、ガバナーを経験してから考えつく地区の諸問題等々の分析と提案をするための時間的、地区役職者としての立場等々の問題が見えてきました。

このような問題を解決するために、戦略計画委員会の下部組織として以下のような「地区戦略計画推進委員会」を設置し、戦略計画委員会を支援することで、地区運営の効率が上がっていることを、参考として紹介いたします。(以下抜粋)

目的と任務:

- ・地区戦略計画委員会の下部組織として設置し、戦略計画委員会委員長からの付託を受けて、戦略計画室が検討や審議する事項の資料収集や提言案等を纏め、戦略計画委員会に提出する。

構成員と任期等:

- ・委員会構成メンバーは3名とし、地区運営に詳しい、地区幹事経験者又は地区委員長経験者。
- ・委員の任期は3年を原則として、欠員が生じる場合、地区幹事経験者又は地区委員長経験者から補充する。
- ・委員会の委員長は3名の中から委員長を互選し、委員長任期を3年以内とする。
- ・構成メンバーの他に、顧問として 地区ガバナー経験者1名を置く。

顧問は、戦略計画委員会が推薦する地区ガバナー経験者とし、任期は原則3年とする。

委員会の会合と場所

委員会は、概ね戦略計画委員会開催の1ヶ月前に開催をするが、戦略計画推進委員会からの開催要望があれば、随時開催して付託に応える。

第3地域 ロータリーコーディネーター補佐 安増 惇夫 (宗像RC)



新型コロナウイルスの感染者が日本で最初に報告されたのは、昨年1月15日に中国・武漢からの帰国者でした。それから1年以上も経ちますが、終息が見えずクラブの活動も縮小しています。

しかしコロナ禍にあっても、ロータリークラブは様々な奉仕活動を実施しています。例えば2640地区（和歌山・大阪南部）は世界ポリオデーに高野山真言宗総本山金剛峯寺で「ポリオ根絶と新型コロナ収束」を祈願する法会を開催されました。宗教や宗派を超え、力を合わせて取り組んでいきたいとのメッセージを添えてfacebookで中継し、メディアでも報道されました。また2660地区（大阪北部）は昨年6月に地区内全クラブ協賛のもと、大阪府および大阪府内医療機関・福祉施設に医療用マスク、防護服、フェイスシールド、災害対策用テントを寄贈し、各病院や府庁での贈呈の様子がメディアに取り上げられました。これら大規模なものに限らず、各クラブが各地域のニーズに応える奉仕活動を行い、その報告を地区ウェブサイトに掲載しています。

コロナ禍によって人々の意識は変わったと思います。何処かで誰かのために役にたちたいと思う方が増えたのではないのでしょうか。これこそが新たな奉仕活動に取り込むチャンスです。地区や他団体と共同で奉仕活動に取り組むことでロータリーの公共イメージが高まります。

従来どおりの奉仕活動が困難となった今こそ、クラブはこれまで以上に創造力を働かせ一つの奉仕活動を工夫してください。そして活動について自ら発信し、地域の人々に知ってもらい、参加してもらうことに繋がしましょう。以前から日本のロータリーは他の奉仕団体に比べ、アピールが弱いとも言われています。対外的に発信することは単なるPRではなく情報の交換であり提供です。近隣のクラブの取り組みを自分のクラブに応用すれば新たな奉仕活動が生まれるでしょう。ロータリークラブを知ってもらえれば地域社会から協力のオファーが来るかもしれません。

皆さんの地元での活動がロータリーの名を広めます。そして世界ポリオデーにすべての地区が活動しポリオ根絶を支援すれば、メディアを通じてロータリークラブが世に周知されます。

ロータリアンである皆さんひとりひとりが広報マンになってください。

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 片山 勉（大阪東RC）